

義務教育学校の設置に関する検討委員会だより ⑪

東国分中学校ブロック 義務教育学校の設置に関する検討委員会

第11回検討委員会の概要をお知らせいたします。

- 1 日 時 令和4年7月29日（金） 17時00分～18時00分
- 2 会 場 市川市立東国分中学校
- 3 委 員 ・大学教授（委員長）各学校（東国分中・曾谷小・稲越小）の学校運営協議会代表（19名）
- 4 内 容 ・報告事項：1. 令和3年度の意識調査のまとめについて
2. プロジェクト会議について
3. 3校で実施した取り組みについて
4. 今後、実施する予定の取り組みについて

※詳しくは、「会議資料」をホームページに掲載しますので、そちらをご覧ください。

【教育委員会⇒分野別情報「学校教育・学校施設」⇒義務教育学校の設置に関する検討委員会】

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/edu20/1111000002.html>

報告

1. 令和3年度の意識調査のまとめについて

令和3年4月と令和4年2月に実施した意識調査を比較し、検証した内容を報告しました。

【令和3年4月と令和4年2月の回答数】 ※2月の調査は、オンラインで実施

	東国分中学校		曾谷小学校		稲越小学校	
	R3.4月	R4.2月	R3.4月	R4.2月	R3.4月	R4.2月
児童生徒	311人	219人	257人	247人	138人	125人
保護者	187人	80人	241人	225人	112人	111人
教職員	21人	19人	25人	16人	14人	15人

(1) 児童生徒の意識調査の内容

「独自の教育課程の編成による効果」、「中一ギャップの緩和」、「教科担任制の導入の効果」、「自己肯定感の高まりや思いやりの心の育成」、「問題行動の防止」の5つの項目について調査を行いました。

<児童生徒の意識調査のまとめ>

- ・ほぼ全ての項目で肯定的な意見が7割以上となっており、「独自の教育課程の編成による効果」、「中一ギャップの緩和」については、1回目と2回目の意識調査に大きな変化は見られませんでした。
- ・一方、「自己肯定感の高まりや思いやりの心の育成」では、一部の質問で低下が見られました。
- ・「問題行動の防止」については、ほぼ全ての質問で、肯定的な回答の割合が上昇しています。
- ・このため、特に「自己肯定感の高まりや思いやりの心の育成」に関連して、3校の交流活動を推進する取り組みの重要性が明らかとなりました。

(2) 保護者の意識調査

「小中一貫教育の子どもへの効果等に対する期待」や、普段思っている意見を確認するため、意識調査を行いました。

<保護者の意識調査のまとめ>

- ・1回目、2回目と、約8割の保護者が小中一貫教育の子ども達への教育効果を期待しており、その中でも「中一ギャップの緩和」への期待が一番多い結果となりました。
- ・一方、小中一貫教育の教育効果について否定的な回答の理由として、「効果が実感できない」「今のところ目に見えていない」などの回答があり、一層の小中一貫教育の推進が求められていると考えています。
- ・自由記述で、「同じ校舎にすべき」、「校舎を一つにした方が、小中一貫校と言えるのではないかなど、一体型校舎についての意見があり、今後校舎についても意見聴取の必要があるものと考えています。

(3) 教職員の意識調査

「授業改善」、「児童生徒への理解の深まり」、「協働体制の構築」、「校務の効率化や質的な向上」の4つの項目について意識調査を行いました。

<教職員の意識調査のまとめ>

- ・1回目と2回目を比較して、大きな変化は見られず、教職員の意識の高さが感じられる結果でした。
- ・意識調査によって、明らかになった課題については、今後、必要な取り組みを検討していきます。

2. プロジェクト会議について

(1) 第10回プロジェクト会議 (令和4年4月27日)

主な内容：4月からスタートした「ふるさと探究科」に関する作業部会を立ち上げ、部会への参加者を「総合的な学習の時間」の主任、教務主任の先生を中心とすることとしました。

(2) 第11回プロジェクト会議 (令和4年6月29日)

主な内容：夏休み期間中の3校の先生による合同研修会の実施について検討しました。

3. 3校で実施した取り組みについて

(1) ふるさと探究科の「学習計画作成」に関する研修会 (令和4年5月30日)

- ・教育委員会(指導課)が講師となり、曾谷小学校の先生を対象に研修会を実施し、各学年の学習計画(案)について話し合いました。
- ・東国分中と稲越小の先生方も確認できるようオンラインで繋ぎ、また録画をしました。

(2) 第1回「ふるさと探究科」専門部会 (令和4年6月13日)

- ・第1回目の部会を実施し、各校の学習計画をお互いに説明し、今後の進め方を検討しました。
- ・「まず小中連携し、中学校の学習につなげていきたい」などの意見がありました。
- ・次回は、各学年で話し合った内容を更に深め、2校の小学校間の取り組みを検討する予定です。

(3) 曾谷小学校と稲越小学校の代表委員会の児童による顔合わせ会 (令和4年7月6日)

- ・子ども同士の初めての交流として、委員会活動(代表委員会)の交流をオンラインで行いました。
- ・自己紹介や代表委員会の活動内容を報告し、2校で「あいさつ運動」などの実施を確認しました。

4. 今後、実施する予定の取り組みについて

(1) ふるさと探究科以外の専門部会の立ち上げ

各教科・領域の担当の先生同士で打ち合わせを行うことになりました。

(2) 中学校教員による、小学6年生の乗り入れ授業(算数)

7月に「分数÷分数」を実施しました。9月には、「比とその利用」の内容を実施する予定です。

(3) 「ちばSDGsパートナー登録制度」への申請

SDGsへの取り組みの意識を更に高めるため、「ちばSDGsパートナー登録制度」に登録しました。

<主な意見> (○：委員長及び委員 ●：事務局及びオブザーバー)

- 保護者から、一体型の校舎がよいという意見も出ているので、塩浜学園の新校舎の見学会や写真を見せてもらいたい。小中の交流や校舎の工夫、体育館の活動状況などを見たい。
- 塩浜学園については、できることを検討したい。
- お互いに高め合うため「信篤三つ葉学園」と情報交換をしたい。
- 信篤三つ葉学園の検討委員会にも提案し、可能であれば、意見交流会など考えていきたい。
- 小中同士の運動会や小中での運動会等、行事を進めてもよいのではないかと。音楽会や読書まつりなど、似たような行事を一緒にできるとよい。また、SDGsはとてもよいので。次回、具体的な内容を教えてほしい。
- 意識調査で6年生が中学校に入学した時は、どうだったか知りたい。
- SDGsの取り組みは、4年生が社会科で国分調整池や春木川を調べる等、水に親しむ活動を行う予定。他にもSDGsの17の目標を、ふるさと探究科の学習活動に取り入れていきたい。